

JR 国府津駅のイベント&小説「約束の海」のその後----斎藤良夫

鉄道開業 150 年の記念行事が続いています。JR 東海道線、御殿場線「国府津駅」は 10 月 17 日「ぬり絵」を展示しました。駅の今昔 96 枚。「昔」は大人が、「今」は保育園児たちが作成しました。それぞれペアで並んでいます。展示には、国府津地区まちづくり推進委員会の「サロンこうづ」が協力しています。

「国府津海岸の砂」が、鉄道の日「記念列車の旅」参加者に配られました。蒸気機関車時代に車輪の空転防止に使用されたことにちなむものです。国府津駅は今後、飾りパン、駅に絡む思い出やエピソード、写真などが順次展示されます。

作家、新井恵美子氏の小説『約束の海～浅羽佐喜太郎物語』の関連記事が『小田原史談』10 月号に掲載されました。浅羽佐喜太郎はベトナム独立運動の志士たちを支援した明治時代の医師で、病院は国府津の東隣の前羽村（現在は小田原市）にありました。記事の筆者は、「小田原浅羽佐喜太郎の会」会長の石井敬士氏。石井氏は親子二代の図書館長で、「小田原の図書館を考える会」や「西さがみ文化フォーラム」のメンバーでもあります。前羽時代の浅羽資料はほとんど無く、その発掘を呼びかけています。

[illegible][illegible]

第271号
発行所 小田原史談会
会刊編集所 氏田 忠久

『約束の海』を企画した秋澤穂子氏